

# 研究・研修計画

## 1 研究主題及び副題

### 確かな力が育つ学びの創造

～学びの価値を見だし、学びをつなげようとする姿を求めて～

## 2 主題（副題）設定の理由

### (1) 今日の教育課題から

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっており、すべての子どもの生き方に大きな影響を与えるものとなっている。このような時代だからこそ、変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことが可能になっていくと考える。

学校教育には子どもたちが様々な変化に積極的に向かい合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められている。こうした状況を踏まえ、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。学習指導要領等を「学びの地図」として、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」について、枠組みを改善するとともに、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められている。また「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、子どもが自己調整しながら学習できるように指導することの重要性が指摘されている。

### (2) 学校教育目標の具現化から

本校では「生きる力を身に付け、自立しようとする新山健児の育成～おもいやる子・かंगाえる子・きたえる子～」を学校教育目標に掲げ、今年度から学校教育活動全体で育む資質・能力として「気付く力」「協働する力」「調整する力」を設定し、「はじめに子どもありき」を基本理念としたこれまでの教育活動の継続と更なる発展を目指している。

本校の研究は、思考力を重視した実践を積み重ね、特に授業づくりの研究として、「確かな力を育てる問題解決的な学習過程」を掲げ、一人一人の子どもが考えをもち、それらを互いに表現し合い、学び合う中で「確かな力」を身に付けていく授業の在り方について研修を重ねてきた。令和元年度からは、「つながる」をキーワードに、自己肯定感を向上させ、自己実現しようとする子どもの育成を目指し、子どもが学びの手応えを感じ、自らの学びを調整して学び続ける姿を求めて研究を進めている。今年度は、学校教育目標に関わる3つの資質・能力を踏まえ、研究においても新たにその資質・能力の育成にアプローチしていく。

### (3) 児童の実態から

第15次研究（5年次）「確かな力が育つ学びの創造～学びをつなげ、学びを活かす姿を求めて～」では、3つの資質・能力「論理的に考える力」「思いを伝え合う力」「学びの価値に気付く力」の育成を目指し、「学びをつなげ、学びを活かす喜び」、「伝え合う喜び」、「分かる・できる喜び」を学習の中に位置付け、児童が「学ぶ喜び」を実感できる授業づくりを目指してきた。

諸調査や学習アンケートの結果からは課題が見られた。「知識及び技能」では正確な用語の理解と計算力、「思考力・判断力・表現力等」では資料を読み取り条件に応じて適切に説明する力、さらに「学びに向かう力・人間性等」においては自ら学ぶ意欲や自己肯定感をもって学びに向かう姿勢などを向上させる必要がある。

これらのことを踏まえ、子どもたちのどのような思いや願い、問いを基に、問題解決だけではなく問題発見にも焦点を当て、内発的動機を確かにした課題設定をする必要がある。さらに、学びのつながりを実感できる単元・授業構想をすることが重要である。また、子ども自身が自己の資質・能力がどのように学びにつながり活用することができるか、より学びを深めるためにどう調整していくかを自覚化することで、自己肯定感や学ぶ姿の向上につながるようにしていくことが必要と考えた。令和2年度から研究主題及び副題を「確かな力が育つ学びの創造～学ぶ価値を見だし学びをつなげようとする姿を求めて～」として、今年度は3年目のまとめの年となる。資質・能力を発揮することの必要性や実感を子どもたちが自らもてるようになってきている。さらに、学びの自覚を支える手立てを工夫し、子どもの姿を見取るとともに、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」についても研修を重ねていきたい。

### 3 重点とする資質・能力と目指す子どもの姿

<b>気付く力</b>	自ら問いを見付け、その解決に向けて、身に付けた知識及び技能をつなげたり活用したりして、多様な考え方や学ぶ楽しさ、学びの価値を実感する力
<b>協働する力</b>	考えるすべを使い、互いの考えを伝え合い、自己内対話や他者との対話を通してよりよい考えを形成し、高め合う力
<b>調整する力</b>	身に付けた力をどのように生かすかを考えたり、多様な考え方や方法で試行錯誤したりして、見通しをもって自ら学びを進める力

#### 〈児童の発達段階に応じた資質・能力と目指す子どもの姿〉

	低学年	中学年	高学年
<b>気付く力</b>	自分で問いをもち、学びがつながる実感を通し、自他のよいところに気付き、学びの楽しさを感じている。	自分で問いを見付け、学びのつながりを見いだし、身に付けた力を関連付けながら、多様な考え方のよさや学ぶ楽しさ、価値を感じている。	自分で問いを見付け、学びのつながりを活かし、様々な身に付けた力を関連付けながら、多様な考え方のよさや学ぶ楽しさ、学びの価値を感じている。
<b>協働する力</b>	考えるすべを使い、友達と考えを伝え合い、高め合う力	考えるすべを使い、互いの考えを伝え合い、対話を通してよりよい考えを形成し、高め合う力	考えるすべを駆使し、互いの考えを伝え合い、対話を重ねてよりよい考えを形成し、高め合う力
<b>調整する力</b>	身に付けた力を使おうと考えたり、他のやり方も試したりする力	身に付けた力を適した場面で活用したり、多様な考え方や方法で試したりして、見通しをもって学ぼうとする力	身に付けた力を適した場面や方法で活用したり、多様な考え方や方法で試行錯誤したりして、見通しをもってよりよく学ぼうとする力

### 4 研究の仮説

子どもの学びを捉え、学びのつながりを踏まえた単元構想・学習展開をし、学びの俯瞰、学びの活用、学びの調整を促す授業を推進することによって、学びの自覚が図られ、学びの価値を見いだし、自ら学びを調整しようとする姿を求めることができるであろう。

### 5 仮説の検証方法

- (1) 研修計画に基づく授業研究会、学年研究推進に基づく日常の授業実践等で、資質・能力を観点とする子どもの実態をPDCAサイクルによって検証する。

〈カリキュラム・マネジメントに基づき、目指す資質・能力が発達段階に応じて身に付いているか〉

- (2) 全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、総合学力調査等の諸調査により、数値に表れる学力で検証する。

〈各教科等で求められている力が身に付いているか〉

- (3) 諸調査の質問紙や学習に関するアンケートにより、学びに対する情意面や資質・能力に関連した思いを数値で捉え検証する。

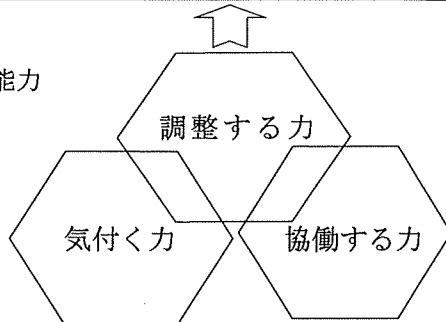
〈学習に対する情意面や資質・能力に関連した学びの自覚は、どのように変容しているか〉

生きる力を身に付け、自立しようとする新山健児の育成  
～おもいやる子・かんがえる子・きたえる子～

### 確かな力が育つ学びの創造

～学びの価値を見だし、学びをつなげようとする姿を求めて～

目指す資質・能力



## 学びの自覚

子どもの学びの  
確かな見取り

学びを俯瞰する  
学びを活用する  
学びを調整する

学びの価値を  
明らかにする  
働きかけ

あれ？ そうだ！ まてよ？ だったら…  
つながる授業

考えるすべ

着目する

比べる

関連付ける

類推する

等

研究の重点

### ◎学びの自覚を支える授業づくりの推進

- 1 資質・能力のつながりを踏まえた単元の構想
- 2 子どもの学びを捉え、思考のつながりを促す手立ての工夫

### 基本的な学び方の定着

カリキュラム・マネジメントを踏まえた  
主体的・対話的で深い学び

## 7 研究の重点と具体的施策

重点 学びの自覚を支える授業づくりの推進

### (1) 資質・能力のつながりを踏まえた単元の構想

- ①生活科・総合的な学習の時間を中心にして資質・能力のつながりを見通し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。
- ②単元を通して身に付けた資質・能力を自覚し、活用する場を設定する。

### (2) 子どもの学びを捉え、思考のつながりを促す手立ての工夫

- ①子どもの学びを見取り、教科等の見方・考え方を働かせた学習を展開する。
- ②考えるすべ「着目する」「比べる」「関連付ける」「類推する」等を活用する場を設定する。
- ③学びを俯瞰し、つながりを考える振り返りを位置付け、学びを調整する機会を設定する。

## 8 研究・研修計画にある用語の捉え

### (1) 「確かな力」について

学校教育法30条に規定された「確かな学力」と同義である。すなわち「基礎的な知識及び技能」「課題を解決するための思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」である。知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものである。

### (2) 「学びの価値を見いだす」について

本校でこれまでの研究で追究してきた「学ぶ喜び」を踏まえ、学びのつながりをより意識して価値付けていくものである。各教科等の見方・考え方を働かせた学びや教科等横断的な学びを通して、試行錯誤を重ねて、学んだ力を汎用的に活用・発揮することで、学びのよさや面白さを感じ、それらを価値付ける力である。子ども自身が学びの価値を見いだすことにより、自らの学びを調整し、活用し、学び続けていくことができると考える。

### (3) 「学びの自覚を支える」について

子どもが自分の学びを俯瞰し、学びの意味や価値を見付け、その学びを調整し活用する力を付けていく。子ども自身が協働的な学びのよさを知り、自他の学びを評価し、課題解決に至った効果的な考え方やすべを明らかにしたり、学びの見通しを修正したりして、自らの学びを調整していく力を付けていくことをねらっている。そのためには、子どもの実際の学びの姿を見取る目を教師が磨くことと学びの価値を明らかにした教師側の働きかけの両方が不可欠である。資質・能力の育成を見据えた単元の構想と、子どもがどのように学んでいるかを見取り、各教科等の見方・考え方を働かせる学習展開を工夫し実践する。

また、ICTを活用した学習活動等についても研修を深め、個別最適な学びの実現に向けた研修と協働的な学びの一層の充実を授業改善につなげ、子どもの学びの質を高めたい。

9 年間研究推進計画

期	期別目標	おもいやる子			かんがえる子			きたえる子		
		道徳教育推進教師・特別活動主任			研究主任・研究推進委員			学習指導部・図書主任		
I期	子どもの育てる。 基本的な行動様式を踏まえ、めあてに向かって挑戦する	環境	○教室環境整備 ・道徳、学級会コーナー ・学級目標 ・縦割り班カード	○教室環境計画 ○学習カード ○声のものさし	○学習のやくそくの確認 ○家庭学習の手引き					
		授業	○道徳・特活の授業	○学年部研究計画の共通理解と実践	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○縦割り活動 ・1年生を迎える会 ○Q-U調査(5年)	○第1回研修会議 (研究の方向性確認) ○第2回研修会議 (カリキュラム・マネジメント及び授業づくり) ○総合学力調査(5~6年) ○知能検査(2・5年) ○全国学力・学習状況調査						
II期	子どもを育てる。 人や自然との関わりが自分の学習や生活の視野を広げることになり、自信をもって行動できる子どもを育てる。	環境	○道徳・特活コーナー掲示	○学びの足跡	○学習のやくそくの徹底 ○ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業	○学年部授業研究 ○要請訪問 ○学年のカリキュラム・マネジメントの実践	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○縦割り活動 ・松ぼっくりデーの計画	○学習アンケート(全校) ○諸調査分析伝達 ○第3回研修会議 (子どもの学びの見取りの研修) ○研修報告	○図書館利用指導 ○親子読書 ○読書感想文					
III期	子どもを育てる。 自己を見つめ直したり、めあてを確かめたりして、ねばり強くやり抜く子どもを育てる。	環境	○道徳・特活コーナー掲示	○学びの足跡 ○特別教室教材整理	○学習のやくそくの徹底 ○算数科ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業	○教科等訪問 ○市授業力向上訪問 ○カリキュラム・マネジメントの見直し	○学習のやくそく強調週間 ○各教科ノート指導 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○縦割り活動 ・松ぼっくりデー	○県学習状況調査(4-6年) ○総合学力調査(1-4年) ○学習アンケート(全校) ○第4回研修会議 (研究の重点の検証) ○研修報告	○親子読書 ○読み聞かせ					
IV期	子どもの育てる。 自分の成長の跡を確かめ、他に感謝するとともに、卒業・進級の喜びとその自覚の下に行動できる子どもを育てる。	環境	○道徳・特活コーナー掲示 ○ありがとう運動掲示	○学びの足跡	○学習のやくそくの徹底 ○算数科ノート展示会					
		授業	○道徳・特活の授業	○各教科実践のまとめ ○回復指導計画 ○カリキュラム・マネジメントの総括	○学習のやくそく強調週間 ○国語・算数・英語デー					
		行事等	○道徳シート整理 ○縦割り活動 ・6年生を送る会	○諸調査分析伝達 ○第5回研修会議 (今年度の研究の総括) ○単元配列表等の見直し	○読書ファイル整理					